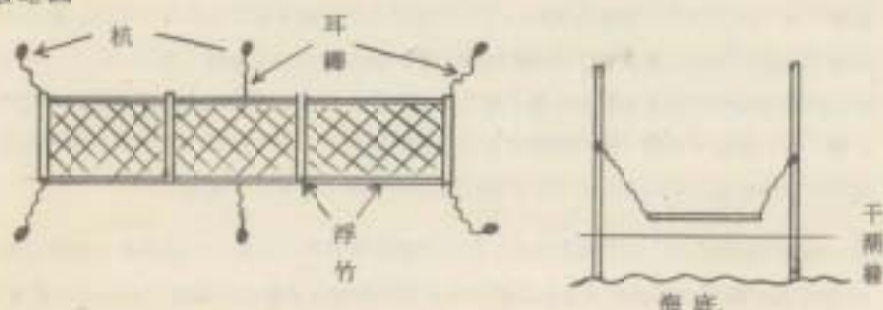


一 網敷敷設方法

網敷は釜辺河川の二本とその間の梯子状に4本の浮竹を附けて長さ3.63m (12尺) と巾1.21m (4尺) とし耳繩6本を附した別に2列の柱を建てその中間に耳繩を杭で結び付けて水平に張り渡したのであるが満潮時は浮竹の浮力で海面に浮び干潮時は干出するよう(干出時間5時間) 各位置に耳繩を加減して敷設した。

敷設略図



＊ 経過

網敷敷設後20日目の1月1日調査したが肉眼ではノリの発芽成育の様相は見受けられず網敷は淡黄色に染まっていた網敷の一部を切り取り持参し検査したが透明のノリ葉状体のものがあつたがツクシマノリの発芽は見られなかつた。

1月16日まで施設をそのままにして結果を見たがのりの発芽は見られなかつたので施設を撤去した。

考 察

未状体胞子の放出があり網敷への附着も見受けれたが胞子の発芽成長は見られず失敗に終つた。その原因としてツクシマノリの発芽場所は外海の北側を面する岸地帯で少し風のある場合は飛沫が掛つてうるおいがあるが敷設場所は内湾入江で降雨時は濁水があつて比重も低下する為発芽成長は適当でないことも考へられるしかし室内にて胞子の放出が行われることから発芽成育も今までの方法に欠陥があつてのことと考へられるのでなほ適当な方法を案出して成功させよう努めたい。

1. ベニツキ貝について

久高喜八郎、高良慎吾

1962年5月宮古平良市久松地先のナベニツキ介を国頭村奥間軍関係海水浴場南側に移殖同年6月28日往査調査を行つたところ移殖場所は生介はなく増殖の類例地に僅かに棲息することが分つたその後約一ヶ年経過しているのでその後の様相を知るため6月20日往査調査を行つた。

2. 結果

前回調査時移殖介懐息場であつた元ボート昇降用橋脚附近の傾斜面一帯を態平で掘き起し調べたが生介は全く見受けられず又近接の砂浜一帯を調べたが生介一個も発見出来ずなほ自然繁殖による生介の発生についても注意して調べたがこれまた発見することはできなかった。その原因について常時監視に当たっていないのではつきりしたことは言われないうが同場所は海水浴場であり浴客相手の世話人をかりてこの世話人が監視することになつてはいたが全員が日が届かず浴客が物珍しさからひそかに採捕しその数が蓄まつて全滅しやうのではないだろうか又世話人の基では昨年の日月頃から全く見えなくなつたとのことであるが同場所は一寸時化ると波が強く砂が移動する様で砂の移動によつて埋没死したのではないだろうか等とも考えられるが常時監視に当たっていないのでその原因を察然させることはできない。

所感 貝類の移殖については失敗が多く又その原因を究明することも出来なう状態である移殖先の地元民は監視は充分であると云つても常時監視人をかりて管理することは出来ないのと同様の問題は遊漁者その他によつて盛られても分らず次第にその数を減じて全滅と云うこととなる特に移動性の少い貝類の場合その例が多いので移殖をなす場合常時監視人をかりて監視することも日頃の貝類の生活状況等観察させる様にした方がいいものである。